

令和8年
9月号

地域おこし 協力隊新聞



建設農林課
小田 智

阿智村の皆様、こんにちは。

6月より販売を開始しました「阿智ジビエ 犬用鹿肉ジャーキー」は、昼神キヨスクなどでの販売も少しずつ伸びている状況です。パッケージデザインは、先日ご紹介しましたとおり阿智村の象徴である満天の星のモチーフを取り入れています。私自身、星を見ることが好きなので、このデザインはとても気に入っております。

さて、阿智村には、日本一の星空を楽しめる施設が、皆様ご存じのとおり、二カ所ございます。その一つである、ヘブンスそのはら「天空の楽園 日本一の星空ナイトツアー」に参加する機会がございました。

当日は、天候もよくロープウェイで標高1400メートル地点まで登ったあとは、各施設を見学し、ガイドの方による星空解説を堪能しま

した。

星空を観光資源にする試みは、今では珍しくないことですが、先駆けてそれを成し遂げられた先達には頭が下がります。さまざまな、取り組みの結果、東京での阿智村認知度（阿智村を知っていると答えた人の割合）は2022年には50%を超えているとのこと、私も阿智村を、多くの方に知っていただくため、先日、鹿肉ふりかけを納品している関東のペットフード店にお願いして、「阿智ジビエ」の宣伝ポスターを店内に掲示していただきました。少しでも阿智村の認知度の向上に貢献できればと思います。

ヘブンスそのはらを、訪れた日は平日でしたが500名以上の方がナイトツアーに来ていただけて、売店も活況でした。犬用鹿肉ジャーキーも、ぜひ売店で販売してもらえよう、はたらきかけ、もっと多くの方に「阿智ジビエ」を手にとってもらえるよう、取り組んで参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



阿智村産業振興公社
松浦 未洋

そろそろ秋の気配が見え隠れしますが、まだまだ残暑が厳しい季節、引き続き暑さ対策をとって、熱中症には十分お気を付けください。

さて、私は協力隊の任期満了後は果樹と野菜を作る方向で考えており、今年のキュウリ栽培は、いかに効率よく作業ができるかにポイントをおいて取り組んでいました。

しかし、キュウリは昨年と異なるハウスで栽培であったため、通路が水浸しになってぬかるみ、毎回の運搬にとっても苦勞するような状況になったり、灌水用の水が不足したり、少ない水をポンプで吸い上げるため、フィルターのつまりが多く発生したりとその他のことで時間を割かなければならない事態が多く発生しました。

圃場の特性をよく理解、確認したうえで下準備をしないと、後々の作業に大きく影響があることを痛感させられました。

果樹の収穫については、収穫の適期を見極めることが難しく、傷がつかないように丁寧に収穫しなければならぬのですが、私は元来大雑把な人間なので、おっかなびっくりビビりながら作業をしています。でもやっぱり長年の果物はおいしいですね。

☆これまでいろいろな農家さんの圃場を見学させていただきました。いわゆる慣行農法や、有機栽培、無農薬栽培、自然農法などなど。

日本という国があり続けるためには食糧の確保が必要不可欠です。

この日本の自然、風土を活用して食糧を確保していくことはこれからも続いていく営みであると思います。

慣行農法と言っても戦後の数十年しかたっていない方法であり、100年後どのような農業が日本の主流になっているのか、その中で私はどんなかたちで農業を後世につなげていけるのか。

令和の米騒動の余波が続く今、コメ由来の命の水と虫の聲を楽しみながら、ゆる〜く自分なりに考えていきたいなと思います。



協働活動推進課
(まつり・イベント)
安部 涼平

少し肌寒い季節になってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。阿智村に移住してきて早いもので半年が経ちました。地元大阪とは違って過ごしやすい穏やかな気候でエアコンを自宅で使わず初めて夏を過ごしました。

さて7月25日に無事行われました「阿智の夏まつり」にご参加の皆様、誠に有難う御座いました。当日は天候に恵まれ、大きな事故がなく終了ができました。一先ずは安心しました。

こちらに来てから机上で考えていたことが段々と形になって当日形になってようやく「阿智の夏まつり」の全体が見えたような気がします。ただ、まつり全体的なこともそうですが、今年度より行ったイベントに関して個人的に課題が残る結果になったものが多くあり運営の難しさを実感した一年目となりました。今

年感じたこと、改善点を次年度へ活かせればと思います。



まつり会場内に位置していて現在工事が進んでいるわいさ公園整備が完了することもあり、「阿智の夏まつり」が大きく変わるタイミングだと思っております。次年度の「阿智の夏まつり」をより良いものにするためにしっかり計画を立てていきます。



協働活動推進課
(全村博物館構想)
大岩 音寧

地域おこし協力隊に着任して5ヶ月が経ちました。地域の皆様の温かいご指導とお力添えに、心より感謝申し上げます。業務の全体像が少しだけ見えてきた今、阿智村が誇る豊かな文化を伝える二つのアプローチに向き合っています。

一つは、史料や展示を通して伝える鑑賞的文化です。現在、10月にはくき木館で予定している「清内路歌舞伎展」の準備を進めています。かつての華やかな賑わいや、大切に受け継がれてきた伝統の足跡を現代に伝えることは、地域の歴史に光を当てる重要な機会であると考えてい



1959（昭和34）年 撮影：熊谷元一

ます。その裏側では文献を調べたり、保管されている衣装・面等のうち何が展示できるか案を出したり、レイアウトを考えたり、それを打ち合わせたりと、地道な作業が続けています。

もう一つは、五感で伝える感覚的文化です。古民家つばやの「五平餅体験」では、昔懐かしい食文化を伝えるために、タレづくり・ご飯の形成も含めた体験を提供しています。体験ガイドとして接客を行い、阿智村の貴重な地域資源を見つめ直せる機会となります。また具材の準備や炭の火起こし、お客様によって異なる時間配分に臨機応変に対応するような裏方業務も行いますが、仕事の基本が凝縮されており良い訓練だと感じています。

鑑賞的文化も感覚的文化もその華やかさ・懐かしさの裏には、地道で丁寧な仕事が存在します。そしてどちらの文化も地域の皆様によって大切に守り継がれた誇り高き文化です。だからこそ知識を深める学びにも、現場での地道な作業にも同様に敬意を払い、一つ一つの業務に対して熱心に向き合っており参ります。今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



阿智村産業振興公社
小川 覚史

スポーツドリンクを飲み過ぎて、自分が溶液栽培されているかと思う今日この頃です。この文章が届く頃にはそろそろ涼しくなっているのでしょうか？ 皆さんいかがお過ごしですか？

トマト栽培の方ですが、梅雨明けがあまりに暑すぎて、花が実にならない時期がありました。高温対策で酢酸やエタノールの散布、遮光等行っても、とても追いつきません。農業をしていると、自然には勝てないなと思われることばかりです。また、作業自体はルーティンワークなのですが、その中でも少しずつコツが分かってきたり、やりやすい順番が分かってきたり、少しずつ工夫するポイントが分かってきました。

自主研修圃場では、夏野菜がたくさんとれています。そのおかげで、夏の間、野菜はほとんど買わなくても済むようになりました。特にきゅうり、ズッキーニは数本植えたただけ

で毎日食べきれない量が生まれてきます。きゅうりは色々な漬物、ズッキーニは干したりしながら、余ったところ近所の方にくばり、なんとか消費しています。また、ありがたいことに浪合では近所の方からトウモロコシをたくさんいただきます。今年は多分20本以上は食べているのではないのでしょうか。それでも毎回甘い、美味しいなと思わせてくれるのはさすが浪合産です。

ここで一つ宣伝があります。

9/26(土)の10時〜17時の間、駒場の古民家つばやさんと、私の妻が一日限定カフェをさせていただきます！私もお手伝いとして参加します。メニューは、キタアカリを練りこんだフォカッチャサンド、阿智村産牛乳で作る自家製チーズやヨーグルトを使ったデザートとジェラート、ハンドドリップコーヒー等ご用意します。席数も限られているので、全品テイクアウトも可能です。駐車場については、駒場区自治会館をご利用ください。残暑の残る季節に少しでもゆったりと、おいしい時間を過ごせるよう尽力しますので、ぜひお気軽にお越しください。



阿智村産業振興公社
山本 真央

朝夕の風に涼しさを感じられるこのごろ、いかがお過ごしでしょうか。この夏は私にとって阿智村で過ごす初めての夏でしたが、想像以上に暑く、周りの方々の力をお借りして何とか乗り越えられました。

主にキュウリの収穫・管理を行い、作業に少し余裕がある際にはぶどうの圃場での作業に取り組んでいます。

まず初めに、キュウリについてですが、葉の掻きすぎによる曲がり果、べと病やアブラムシの発生などもあり課題が多く残りました。日々何気なく食べているお野菜がどれだけ丁寧に愛情を持って育てられているかを考えるきっかけになりました。

次に、ぶどうの圃場での作業についてです。草刈りや副梢管理、収穫の一部を経験しました。久しぶりに見ると、実が大きくなっていたり、色が付き始めていたり成長が感じられ、来年からは自らがぶどうの作

業に携わり、今年よりもっと身近に成長を感じられるようにしたいと考えています。

最後にこの夏に初めて取り組んだことについてです。それは大学の学祭への出店です。周りの方々の力を貸していただきながら協力隊の2人でどきどきわくわくしながら初めての出店を経験しました。普段は特定の品目を研修させていただいており、販売のことはゼロからのスタートでした。特に値段の決め方、お客様への声のかけ方、珍しいお野菜については料理方法の説明などに苦戦しました。その一方で、何度か出店をさせていただいていることもあり「阿智村のお野菜」の知名度もある程度確立されてきたように感じます。中には、「今日は阿智村のとうもろこしを買いに来たの。」「去年買っておいしかったからまた買えてうれい。」といった声もいただきました。まだ生産者という立場ではありませんが、販売している一人として嬉しさを感じ、将来この阿智村で生産者として多くの方の食に関われるように日々努力していきたいと強く思いました。



水辺の動植物観察会で子どもたちが捕まえたザリガニ

暑さも少しずつ和らぎ、秋の気配を感じる季節となってきました。真夏を阿智村で過ごす中、朝晩の涼しさには驚かされるとともに、改めてこの地域の過ごしやすさを感じています。

任期から目まぐるしく時が過ぎていく中で、7・8月は夏休み中の子どもたちと過ごすイベントが多い月となりました。「水辺の動植物観察会、阿智村路線バスの旅、チャレンジフェスティバル」、これらを通して全力で楽しむ子どもたちのパワーに元気をもらいながら活動ができました。



教育委員会
(文化・スポーツ)
中村 友彌

「阿智村路線バスの旅」では、行った先で昼食の買い出しを子どもたち自身で行い、最後に購入したものを調理して頂く、という行程で旅を進めました。参加者に聞いてみると路線バスに初めて乗ったという子が多く、貴重な機会になったのではないかと思います。路線バスに揺られる中で阿智村を知り、その地域に実際にいかないという手に入らないものや気づきを子どもたち自身で感じ取ってもらえたら嬉しいなと思いました。私自身もまだまだ知らない『阿智村』を子どもたちと一緒に旅をしたことで様々な角度から知ることができ、とても良い学びになったイベントでした。

また、チャレンジフェスティバルでは、路線バスの旅に参加してくれた子が手を振ってくれたり話しかけてくれたりしたことがとても嬉しく、同時に可愛くて純粋な子どもの笑顔は最強だなと実感しました。

小学生からシニア世代まで、多世代の村民と関わる機会が多いチャレンジゆうアチで活動できることにありがたみを感じています。これから老若男女に慕われることを目指して自分なりに活動していきます。

マイナンバーカードのお手続きの際は 事前に予約をお願いします！

（カードの更新・申請（顔写真撮影） 電子証明書の更新 暗証番号再設定
在留カードの更新に伴う有効期間変更など）

今年度より、マイナンバーカードの更新、電子証明書の更新等のお手続きに来庁される方が多くなることが見込まれています。窓口の混雑、待ち時間緩和のため、予約の方を優先的にご案内しております。ぜひ来庁日時の予約をお願いします。また、時間には余裕をもってお越しいただくようお願いいたします。

※マイナンバーカードのお手続きには、決めていただいている暗証番号（数字4ケタ、英数字6ケタ以上等）が必要となりますので、わかるようにしてお越しいただくとスムーズに手続きが進みます。



マイナポータルアプリは
マイナアプリとしてアップ
デートできます

WEB または 電話 での 予約 にご協力ください！



◀WEB予約はこちら

阿智村役場民生課 マイナンバーカード担当

電話予約はこちら ▶ TEL 0265-43-2220